

書陵部紀要総目次（第一号～第三十号）

一、通巻目録

第一号 昭和26年3月

発刊の辞

皇后中宮問題の解決

昭和二十三年度正倉院楽器調査概報

図書寮本類聚名義抄出典索引

書陵部官制の変遷

蔵書史と新収書解説

貴重図書の釀刻、出版

疎開から展示会へ

編修課事業概要

正倉院年報

図版（正倉院年報関係・新収図書）

（頁）

表紙裏

芝 葛盛

芝 祐泰・長屋謙三

橋本不美男

27

51

55

60

62

69

73

（二〇頁）

第二号 昭和27年3月

国忌の廃置について

律令制官人社会構成の一考察

——外位制の本質と機能を中心に——

昭和二十五年正倉院楽器調査概報

彙報

図書関係事業概要

編修課事業概況

正倉院年報

附録 正倉院古裂銘文集成（一）

図版（正倉院楽器・正倉院年報関係・正倉院古裂銘文集成）

芝 祐泰・長屋謙三
滝 遼一・岸边成雄

中村 一郎

野村 忠夫

28

54

58

59

1

松島 順正

（一四頁）

第三号 昭和28年3月

和歌・連歌・俳諧

——宗祇・兼載の俳諧百韻その他を紹介して俳諧連歌抄の成立に及ぶ——

歌合変移の一モメント

——康和期国信卿家歌合と俊頼と基俊と——

太政官厨家について

伊地知鉄男

橋本不美男

橋本 義彦

橋本 義彦

1

18

38

広橋守光記に就て

菊地 康明

49

楽翁公松平定信の蒐集に係はる大般若經

大窪 太朗

56

昭和二十七年正倉院楽器調査概報

芝 祐泰・長屋謙三
滝一・岸辺成雄

74

正倉院年報

85

附録 正倉院古裂銘文集成

松島 順正

18

図版 (宗祇・独吟百韻・小槻有家注文・国信卿家歌合・広橋守光記・慈光寺經・正倉院楽器・正倉院年報関係・正倉院古裂銘文集成)

(一八頁)

第四号 昭和29年3月

郡司制の一考察——任用規定を中心として——

後藤 四郎

1

律令制官人構成についての序章

野村 忠夫

18

——装演生奉常忌寸秋庭の場合——

院政政権の一考察

橋本 義彦

36

貞享度大嘗会の再興について

武部 敏夫

54

正倉院密陀絵調査報告

上村六郎・亀田 孜・木村康一
北村大通・山崎 一雄

68

彙報

86

正倉院年報

89

図版 (正倉院密陀絵・正倉院年報関係 後伏見院宸翰詠歌・後柏原天皇宸記)

(六頁)

第五号 昭和30年3月

応神・仁徳・履中三天皇陵の規模と營造

梅原 末治

1

戸籍より見た大宝前後の継嗣法

今江 広道

16

——特に庶人の嫡子について——

北野信仰と連歌

伊地知鉄男

32

正倉院御物金工品の調査報告

正倉院御物「鏡」の製作技術の研究

内藤 春治

43

正倉院金工品の技術的研究

鈴木 信一

54

——白銅鏡の製作工程に就いて——

正倉院御物研究報告書

山脇 洋二

60

正倉院御物金工品の彫金的調査

後藤 年彦

70

正倉院御物の技術的調査報告書

三井安蘇夫

77

——主として鍛金(鋳起・打出)について——

正倉院年報

81

彙報

86

図版 (正倉院金工品調査・正倉院年報関係)

(七頁)

第六号 昭和31年3月

陵墓参考地鶴塚・秘塚の調査

末永 雅雄

1

上代国司制度の一考察

菊地 康明

9

摂関期における浄土思想の一考察

小林 盛得

24

——慶滋保胤について——

「奈良の歌合」の成立と伝存

橋本不美男

34

——奈良花林院歌合と永祿奈良房歌合と——

彙報

正倉院年報

聖語藏御本成実論卷十一天長五年点訳文稿

図版（正倉院年報関係・鶴塚・秘塚）

第七号（正倉院特集） 昭和31年6月

刊行の辞

正倉院校倉屋根内部構造の原形について

正倉院の御物鏡について

正倉院宝庫の薬物

南倉和琴の所謂瑠璃画について

瑠璃画の復原について

南倉和琴の瑠璃絵の技法

犀円文錦について

正倉院はいかに守られたか

献物帳所載の御物と現存品について

題名・調卷形式より見た聖語藏大智度論について

正倉院御物銘文集

正倉院年表

図版

鈴木 一男

1

（六頁）

三井 安弥

1

浅野 清

5

梅原 末治

19

渡辺 武

30

林 謙三

49

松村 政雄

69

太田 英蔵

79

和田 軍一

95

松島 順正

105

松本 包夫

116

松島 順正

131

松本 包夫

149

（二六頁）

第八号 昭和32年3月

北山の加持

旧鈔春秋経伝集解に於ける頼業の訓説とその
巻子本

伝授について

関書余録——頼業の学庸表章説について——

江戸時代歴代天皇の御書流

正倉院御物の模様染について

昭和二十八年正倉院御物材質調査

彙報

正倉院年報

成実論卷二十二天長五年点

図版（北山の加持・頼業の訓話と伝授・関書余録・歴代
天皇の御書流・正倉院御物・成実論天長五年点）

第九号 昭和33年3月

但馬国朝来郡栗鹿大明神元記に就いて

日本仏教公伝年代の問題

——欽明天皇御世戊午年伝来の説について——

所謂「陸奥国戸籍」残簡について

正倉院錦綾に見る特異技法の一考察

正倉院髹漆品調査報告（上）

彙報

山岸 徳平

1

鎌田 正

11

米山寅太郎

21

大窪 太朗

27

明石 国助

41

大賀 一郎外

57

鈴木 一男

84

（二八頁）

是沢 恭三

1

北条 文彦

18

今江 広道

48

佐々木信三郎

61

松田権六・吉野富雄・溝口三郎

78

北村久造・岡田譲

91

図版（粟鹿大明神元記・陸奥国戸籍残簡）

（一〇頁）

第十号 昭和33年10月

院政期歌壇の一考察——藤原俊忠の生涯をめぐって——

橋本不美男 1

不三得七法について

菊地 康明 33

空也と平安知識人——空也誄と日本往生極楽記弘也伝——

小林 盛得 47

南北朝、室町期における庄園的収取機構

田沼 睦 56

——東寺領丹波国大山庄を中心にして——

正倉院錦綾に見る特異技法の一考察（その二）

佐々木信三郎 79

和琴の形態の発育経過について

林 謙三 94

所謂『陸奥国戸籍』残簡調査概報

岸 俊男 105

枳慶政略伝

55・78・113

正倉院年報

114

書陵部紀要総目次（第一号～第十号）

118

図版（正倉院和琴・陸奥国戸籍残簡・正倉院年報関係）

（六頁）

第十一号 昭和34年10月

官務家小槻氏の成立とその性格

橋本 義彦 1

——下級官僚氏族の典型として——

内膳奉膳について

後藤 四郎 19

——高橋安曇二氏の関係を中心として——

一代要記について——東山御文庫本を中心として——

今江 広道 30

正倉院錦綾に見る特異技法の一考察（その三）

佐々木信三郎 50

上代製の染色に関する化学的研究

上村六郎・高木 豊 72

正倉院髹漆品調査報告（下）

松田権六・吉野富雄・溝口三郎
北村久造・岡田 譲 77

史料紹介 小槻匡遠記

橋本 義彦 89

彙 報

正倉院年報

100

図版（正倉院年報関係・一代要記・小槻匡遠記）

（四頁）

第十二号 昭和35年10月

源国信と恋昔百首——堀河院歌壇の終焉——

橋本不美男 1

民間浄土思想の系譜に関する試論

平林 盛得 15

——空也布教の背景——

公家領荘園の研究

田沼 睦 26

——十六世紀初頭における領主権と在地状勢——九条家領日根野荘の場合——

世襲親王家の継統について

武部 敏夫 42

——伏見宮貞行・邦頼兩親王の場合——

正倉院の綾

西村 兵部 56

史料紹介 土右記

平林 盛得 90

正倉院年報

107

彙 報

111

図版（正倉院の綾）

（二六頁）

上代裂の染色に関する化学的研究

上村六郎・高木 豊

94

第十三号 昭和37年3月

古墳の周庭帯と陪家

末永 雅雄

1

所謂「伊予国正税帳」について

早川 庄八

43

正倉院の錦

太田 英蔵

57

概説

佐々木信三郎

58

組織

西村 兵部

81

各説

石塚 一雄

126

資料紹介 高松宮家蔵沙弥蓮愉集

正倉院年報

143

彙報

図版（周庭帯と陪家・正倉院の錦）

147

図版（周庭帯と陪家・正倉院の錦）

（五六頁）

第十四号 昭和37年10月

公田賃租について

菊池 康明

1

—— 地子の太政官輸納制度の成立と変遷 ——

花山法皇と性空上人

平林 盛得

37

—— 平安期における一持経者の周辺 ——

徳川家康の関東転封に関する諸問題

川田 貞夫

54

調査報告 正倉院十鞍について

鈴木 治

79

資料紹介 時範記

早川 庄八

99

正倉院年報

飯倉 晴武

16

彙報

今江 広道

1

図版（正倉院十鞍・時範記）

（六頁）

第十五号 昭和38年10月

紀伊国阿三川庄の伝領関係

伏見宮旧蔵図書

62

—— 畿内在地領主の一考察 —— 和泉国和田氏の場合 ——

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（一）

松本 包夫

39

伏見宮旧蔵図書目録

正倉院年報

93

彙報

図版（聖語蔵五月一日経・伏見宮旧蔵図書）

（二〇頁）

第十六号 昭和39年10月

白河院と和歌——後拾遺集の撰集下命をめぐって——

橋本不美男

1

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（二）

松本 包夫

13

「天寿国曼荼羅繡帳縁起勘点文」について

飯田 瑞穂

41

幕末の修陵について

戸原 純一

60

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（天寿国曼荼羅繡帳縁起勘点文・聖語蔵五月一日経）

（二頁）

日本曹洞宗に於ける大日能忍の達磨宗の消長

——徹底義介をめぐって——

世子能楽風情論（下）

正倉院宝庫の裏衣香（えひこう）について

彙報

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

川副 武胤

1

嗣永 芳照

31

八嵐 正治

43

渡辺 武

71

第十七号

昭和40年10月

外記日記と殿上日記

公田段銭と守護領国

聖語蔵五月一日経の筆者と書写年代その他（三）

世子能楽風情論（上）

——女能の様式的変遷について——

資料紹介

後崇光院宸筆物語説話断簡について

時範記補遺

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（聖語蔵五月一日経）

（二頁）

第十八号

昭和41年11月

古事記女性称呼考

図版（日葉酢媛命御陵）

（六頁）

第二十号 昭和43年11月

後白河天皇法住寺陵の御像に関する調査報告

御木像の形状について

御木像の彩色について

御木像の年代について

御絵像について

御絵像の紙背注記と願文について

御木像の御厨子と法華堂に転用された古材について

いて

八世紀の郡司について

「弘養法華伝」保安元年初伝説存疑

源俊頼と連歌——散木奇歌集巻十を中心として——

張幼于論——伝記研究の視界から——

史料紹介 智仁親王御年曆

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

書陵部紀要総目次（第十一号～第二十号）

図版（後白河天皇御像・智仁親王御年曆）

（二〇頁）

第二十一号 昭和45年3月

中世的公田体制の成立と展開

足利義満の公家化

正倉院蔵・礼服礼冠と国家珍宝帳

上代裂の染色に関する化学的研究（その四）

資料紹介

九条殿記

後崇光院宸筆宝蔵絵詞

西周「人智論」新資料

彙報

明治天皇紀の公刊

図書関係事業概要

正倉院年報

図版（国家珍宝帳・九条殿記・宝蔵絵詞）

第二十二号 昭和45年11月

二月堂炎上と文書・聖教の出現

中宮の意義と沿革

新古今時代の秀句について

文机談成立攷——伏見宮本を中心として——

堀池 春峯	1	田沼 睦	1
橋本 義彦	24	伊藤 旭彦	23
八瀧 正治	50	栗原 治夫	41
相馬万里子	70	高木 豊	48
		橋本 義彦	75
		石塚 一雄	77
		森 県	82
			86
			86
			107

（二頁）

資料紹介

景行天皇陵出土の須恵甕

慈覚大師御縁起

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版 (酒人内親王施入状・紺紙銀字華嚴經・文机談・慈覚大師御縁起・景行天皇陵出土須恵甕)

第二十三号

昭和46年11月

妻鳥陵墓参考地東宮山古墳の遺物と遺構について

源俊頼の旅と和歌——悲歎部を中心として——

有司専制政權と島津久光

谷森善臣著作年譜抄

資料紹介 済時記

彙報

図書関係事業概要

正倉院年報

図版 (妻鳥陵墓参考地遺物遺構・済時記)

第二十四号

昭和47年12月

正倉院の衣服について

鑄銭司の所在地について

摂津国租帳に関する基礎的考察

書陵部蔵「内匠寮本」調査報告

京都御所作事関係年譜 天正度・安政度

資料紹介 延喜式覆奏短尺草写

彙報

正倉院年報

図版 (正倉院の衣服・摂津国租帳・延喜式覆奏短尺草写・内匠寮本指図)

第二十五号

昭和49年3月

正倉院藏の版型について

歌合史から見た玉葉歌風の変遷

——初期為兼世界への照射——

西周と「宮中御談会」について

宇和奈辺陵墓参考地陪家高塚(大和六号墳)出土

鉄鋌の金属考古学的調査

資料紹介 優填王所造栴檀积迦瑞像歴記

附 西郊清凉寺瑞像流記

彙報

正倉院年報

図版 (正倉院藏版型・宇和奈辺陵墓参考地陪家の鉄鋌・優填王所造栴檀积迦瑞像歴記・正倉院年報関係)

中村 一紀

米田 雄介

平井 聖

嗣永 芳照

今江 広道

森 泉

窪田 蔵郎

平林 盛得

松本 包夫

八嶋 正治

飯倉 晴武

林 恵一

小池 一行

三木 文雄

石田 茂輔

平林 盛得

石田 茂輔

平林 盛得

平林 盛得

平林 盛得

平林 盛得

平林 盛得

平林 盛得

平林 盛得

平林 盛得

第二十六号 昭和50年2月

正倉院の織維類について
 検交替使帳の基礎的考察

資料紹介 景行天皇山辺道上陵の出土品

彙報

正倉院年報

図版（正倉院の織維・正倉院年報関係・検交替使帳）

布目 順郎 1

吉岡 真之 47

笠野 毅 68

正倉院年報 76

図版（正倉院の屏風・花樹双鳥文綾について）

正倉院年報 98

第二十七号 昭和51年2月

正倉院北倉の出納関係文書について

法家中原氏系図考証

書陵部蔵『年中行事絵巻』諸本について

資料紹介 大市墓の出土品

経俊卿記補遺

彙報

正倉院年報

図版（正倉院北倉の出納関係文書・大市墓出土品・正倉院年報関係・経俊卿記断簡）

柳 雄太郎 1

今江 広道 18

相馬万里子 39

中村一郎・笠野 毅 57

飯倉 晴武 66

正倉院年報 70

正倉院年報 117

図版（正倉院北倉の出納関係文書・大市墓出土品・正倉院年報関係・経俊卿記断簡）

第二十八号 昭和52年3月

正倉院の屏風について

松島 順正 1

花樹双鳥文綾について

正倉院聖語蔵点本

杉原宗伊自筆『百首和歌詠草』について

景愛寺の沿革——尼五山研究の一齣——

彙報

正倉院年報

図版（正倉院の屏風・花樹双鳥文綾・正倉院年報関係）

松本 包夫 16

鈴木 一男 23

小池 一行 41

荒川 玲子 57

正倉院年報 70

正倉院年報 110

図版（正倉院の屏風・花樹双鳥文綾・正倉院年報関係）

第二十九号 昭和53年3月

九条家領の成立と道家惣処分状について

後水尾天皇の禁中御学問講

正倉院宝物残材調査報告

資料紹介

九条殿記

実躬卿記

昭和五十一年度陵墓関係調査概要

正倉院年報

彙報

図版（正倉院年報関係・九条殿記・正倉院残材調査報告）

飯倉 晴武 1

本田 慧子 20

松島順正・木村法光 37

平林 盛得 45

今江 広道 50

正倉院年報 66

正倉院年報 89

正倉院年報 103

図版（正倉院年報関係・九条殿記・正倉院残材調査報告）

第三十号 昭和54年2月

幕末修陵事業と川路聖謨

川田 貞夫 1

今江 広道 戸籍より見た大宝前後の継嗣法

五

古代末期における美濃源氏の動向

宮崎 康充 22

——特に庶人の嫡子について——

九

図書寮本の疎開前後

大窪 太朗 37

所謂「陸奥国戸籍」残簡について

九

資料紹介

小池 一行 47

一代要記について——東山御文庫本を中心として——

一一

後崇光院統歌百首

小池 一行 47

紀伊国阿豆川庄の伝領関係

一五

——図書寮叢刊『後崇光院歌合詠草類』補遺——

小池 一行 47

法家中原氏系図考証

二七

むかし女房の一口ものかたり

石塚 一雄 55

樫山 和民 藩制確立期の新田開発——仙台藩の場合——

一九

昭和五十二年度陵墓関係調査概要

65

有司専制政權と島津久光

二三

彙報

105

川副 武胤 古事記女性称呼考

一八

書陵部紀要総目次（第一号～第三十号）

135

川田 貞夫 徳川家康の関東転封に関する諸問題

一四

図版（後崇光院統歌百首・むかし女房の一口ものかたり・陵墓調査概要関係）

（八頁）

幕末修陵事業と川路聖謨

三〇

幕末修陵事業と川路聖謨

三〇

二、類別目録

上代国司制度の一考察

六

（一）論文・調査報告

不三得七法について

一〇

○歴史関係

（巻）

公田賃租について

一四

荒川 玲子 景愛寺の沿革——尼五山研究の一齣——

二八

後藤 四郎 郡司制の一考察——任用規定を中心として——

四

飯倉 晴武 畿内在地領主の一考察——和泉国和田氏の場合——

一五

内膳奉膳について——高橋安曇二氏の関係を中心として——

一一

九条家領の成立と道家惣処分状について

二九

海部管見

一九

飯田 瑞穂 「天寿国曼荼羅繡帳縁起勘点文」について

一六

是沢 恭三 但馬国朝来郡粟鹿大明神元記に就いて

九

伊藤 旭彦 足利義満の公家化

二一

芝 葛盛 皇后中宮問題の解決

一

武部 敏夫	貞享度大嘗会の再興について	四	——下級官僚氏族の典型として——	
	世襲親王家の継統について	一二	外記日記と殿上日記	一七
	——伏見宮貞行・邦頼兩親王の場合——		中宮の意義と沿革	二二
田沼 睦	南北朝、室町期における庄園的収取機構	一〇	早川 庄八	一三
	——東寺領丹波国大山庄を中心にして——		所謂「伊予国正税帳」について	二四
	公家領荘園の研究	一二	平井 聖	六
	——十六世紀初頭における領主権と在地状勢——九条家領日根野荘の場合——		書陵部蔵「内匠寮本」調査報告	
	公田段銭と守護領国	一七	平林 盛得	
	中世的公田体制の成立と展開	二一	撰関期における浄土思想の一考察	
嗣永 芳照	日本曹洞宗に於ける大日能忍の達磨宗の消長	一八	——慶滋保胤について——	
	——徹通義介をめぐる——		空也と平安知識人——空也誄と日本往生極楽記弘也伝——	一〇
	京都御所作事関係年譜 天正度～安政度	二四	釈慶政略伝	一〇
中村 一郎	国忌の廃置について	二	民間浄土思想の系譜に関する試論	一二
中村 一紀	鑄銭司の所在地について	二四	——空也布教の背景——	
野村 忠夫	律令制官人社会構成の一考察	二	花山法皇と性空上人	一四
	——外位制の本質と機能を中心に——		——平安期における一持経者の周辺——	
	律令制官人構成についての序章	四	「弘贊法華伝」保安元年初伝説存疑	二〇
	——装演生衣常忌寸秋庭の場合——		日本仏教公伝年代の問題	九
橋本 義彦	太政官厨家について	三	——欽明天皇御世戊午年伝来の説について——	
	院政政権の一考察	四	堀池 春峯	二二
	官務家小槻氏の成立とその性格	一一	本田 慧子	二九
			後水尾天皇の禁中御学問講	
			宮崎 康充	三〇
			古代末期における美濃源氏の動向	
			森 県	二五
			西周と「宮中御談会」について	
			吉岡 真之	二六
			検交替使帳の基礎的考察	

米田 雄介	八世紀の郡司について	二〇
	撰津国租帳に関する基礎的考察	二四
○文学関係		
伊地知鉄男	和歌・連歌・俳諧	三
	——宗祇・兼載の俳諧百韻その他を紹介して俳諧連歌抄の成立に及ぶ——	
北野信仰と連歌		五
大窪 太朗	楽翁公松平定信の蒐集に係はる大般若經	三
	江戸時代歴代天皇の御書流	八
鎌田 正	日鈔本春秋經伝集解に於ける頼業の訓説とその伝授について	八
小池 一行	源俊頼と連歌——散木奇歌集巻十を中心として——	二〇
	源俊頼の旅と和歌——悲歎部を中心として——	二三
	杉原宗伊自筆『百首和歌詠草』について	二八
相馬万里子	文机談成立攷——伏見宮本を中心として——	二二
	書陵部蔵『年中行事絵巻』諸本について	二七
橋本不美男	図書寮本類聚名義抄出典索引	一
	歌合変移の一モメント	三
	——康和期国信卿家歌合と俊頼と基俊と——	
	「奈良の歌合」の成立と伝存	六
	——奈良花林院歌合と永縁奈良房歌合と——	
	院政期歌壇の一考察——藤原俊忠の生涯をめぐって——	二〇
	源国信と恋昔百首——堀河院歌壇の終焉——	二二
	白河院と和歌——後拾遺集の撰集下命をめぐって——	二六
林 恵一	張幼于論——伝記研究の視界から——	二〇
	谷森善臣著作年譜抄	二三
八畠 正治	世子能楽風情論——女能の様式的変遷について——	二七
	世子能楽風情論——承前——	一八
	新古今時代の秀句について	二二
	歌合史からみた玉葉歌風の変遷	二五
	——初期為兼世界への照射——	
山岸 徳平	北山の加持	八
米山寅太郎	閱書余録——頼業の学庸表章説について——	八
○陵墓・考古関係		
赤松 俊秀	御絵像の紙背注記と願文について（後白河天皇陵調査報告の中）	二〇
浅野 清	御木像の御厨子と法華堂に転用された古材について（同前）	二〇
石田 茂輔	日葉酢媛命御陵の資料について	一九
梅津 次郎	御絵像について（後白河天皇陵調査報告の中）	二〇
梅原 末治	応神・仁徳・履中三天皇陵の規模と营造	五

窪田 蔵郎	宇和奈辺陵墓参考地陪冢高塚（大和六号墳）出土			
	鉄鋌の金属考古学的調査	二五	大槻 虎男	昭和二十八～三十年代正倉院御物材質調査
小林 剛	御木像の年代について（後白河天皇陵調査報告の中）	二〇	岡田 讓	正倉院髹漆品調査報告
末永 雅雄	陵墓参考地鶴塚・秘塚の調査	六	亀田 孜	正倉院密陀絵調査報告
	古墳の周庭帯と陪冢	一三	岸 俊男	所謂『陸奥国戸籍』残簡調査概報
戸原 純一	幕末の修陵について	一六	岸 成雄	昭和二十五・二十六年正倉院楽器調査概報
松村 政雄	御木像の彩色について（後白河天皇陵調査報告の中）	二〇	北村 久造	昭和二十七年正倉院楽器調査概報
三木 文雄	妻鳥陵墓参考地東宮山古墳の遺物と遺構について	二三	北村 大通	正倉院髹漆品調査報告
毛利 久	御木像の形状について（後白河天皇陵調査報告の中）	二〇	北村 康一	正倉院密陀絵調査報告
			木村 康一	正倉院密陀絵調査報告
			木村 法光	正倉院宝物残材調査報告
○正倉院関係			栗原 治夫	正倉院蔵礼服礼冠と国家珍宝帳
明石 国助	正倉院御物の模様染について	八	清水卓二	昭和二十八～三十年代正倉院御物材質調査
浅野 清	正倉院校倉屋根内部構造の原形について	七	後藤 年彦	正倉院御物金工品の彫金的調査
朝比奈貞一	昭和二十八～三十年代正倉院御物材質調査	八	佐々木信三郎	正倉院錦綾に見る特異技法の一考察
石渡達六郎	昭和二十八～三十年代正倉院御物材質調査	八		九・一〇・一一
上村 六郎	正倉院密陀絵調査報告	四	芝 祐泰	正倉院の錦 組織
	上代製の染色に関する化学的研究	一一・一四・一九		昭和二十三・二十四年度正倉院楽器調査概報
梅原 末治	正倉院の御物鏡について	七		昭和二十五・二十六年正倉院楽器調査概報
大賀 一郎	昭和二十八～三十年代正倉院御物材質調査	八	鈴木 治	昭和二十七年正倉院楽器調査概報
太田 英蔵	犀円文錦について	七	鈴木 一男	正倉院十鞍について
	正倉院の錦 概説	一三		聖語蔵御本成実論卷十一天長五年点訳文稿
				成実論卷二十二天長五年点

鈴木 信一	正倉院聖語藏点本	二八	正倉院御物銘文集	七
	正倉院金工品の技術的研究	五	正倉院の衣服について	二四
	——白銅鏡の製作工程に就いて——		正倉院の屏風について	二八
高木 豊	上代製の染色に関する化学的研究	一一・一四・一九	正倉院宝物残材調査報告	二九
滝 庸	昭和二十八～三十年度正倉院御物材質調査	八	松田 権六	九・一一
滝 遼一	昭和二十五・二十六年正倉院楽器調査概報	二	松村 政雄	七
	昭和二十七年正倉院楽器調査概報	三	松本 包夫	七
内藤 春治	正倉院御物「鏡」の製作技術の研究	五	題名・調卷形式より見た聖語藏大智度論について	七
長屋 謙三	昭和二十三・二十四年度正倉院楽器調査概報	一	正倉院年表	七
	昭和二十五・二十六年正倉院楽器調査概報	二	聖語藏五月一日経の筆者と書写年代その他	一五・一六・一七
	昭和二十七年正倉院楽器調査概報	三	正倉院藤纏の版型について	二五
西村 兵部	正倉院の綾	一二	花樹双鳥文綾について	二八
	正倉院の錦 各説	一三	溝口 三郎	九・一一
西脇 昌治	昭和二十八～三十年度正倉院御物材質調査	八	三井安蘇夫	五
布目 順郎	正倉院の繊維類について	二六	正倉院御物の技術的調査報告書	
林 謙三	南倉和琴の所謂瑠璃画について	七	——主として鍔金（鍔起・打出）について——	
	和琴の形態の發育経過について	一〇	森 八郎	八
益富寿之助	昭和二十八～三十年度正倉院御物材質調査	八	柳 雄太郎	二七
松島 順正	正倉院古裂銘文集成	二・三	山崎 一雄	四
	献物帳所載の御物と現存品について	七	山崎 文男	八
			山階 芳麿	八
			昭和二十八～三十年度正倉院御物材質調査	

山脇 洋二	正倉院御物研究報告書	五	經俊卿記補遺	飯倉 晴武	二七
吉野 富雄	正倉院髹漆品調査報告	九・一一	九条殿記	平林 盛得	二九
和田 軍一	正倉院はいかに守られたか	七	実躬卿記	今江 広道	二九
渡辺 武	正倉院宝庫の薬物	七			
	正倉院宝庫の裏衣香（えひこう）について	一八	高松宮家蔵沙弥蓮愉集	石塚 一雄	一三
亘理 俊次	昭和二十八～三十年度正倉院御物材質調査	八	後崇光院宸筆物語説話断簡について	石塚 一雄	一七
			尊円法親王御詠草三種	森 県	一九
			後崇光院宸筆宝蔵絵詞	石塚 一雄	二一
			後崇光院統歌百首	小池 一行	三〇
小槻匡遠記		一一	—— 図書寮叢刊『後崇光院歌合詠草類』補遺 ——		
土右記		一二	むかし女房の一口ものかたり	石塚 一雄	三〇
時範記		一四			
時範記補遺		一七	景行天皇陵出土の須恵甕	石田 茂輔	一二
後崇光院御文類		一九	景行天皇山辺道上陵の出土品	笠野 毅	二六
智仁親王御年曆		二〇	大市墓の出土品	中村一郎・笠野 毅	二七
九条殿記		二二			
西周「人智論」新資料		二二			
慈覚大師御縁起		二二			
済時記		二三			
延喜式覆奏短尺草写		二四			
優填王所造栴檀釈迦瑞像歴記		二五			
附 西郊清凉寺瑞像流記					

(三) 彙報・年報

図書関係事業概要	二、四、六、八、九、一一～三〇
伏見宮旧蔵図書仮目録	一五
図書追加目録	一一、一二、一三、一五、二七、二九
函架番号変更	二九

写真複製本目録

三〇

古文書の調査（二八～二九号）

（四）その他

陵墓関係調査概要

二五～三〇

仁徳天皇陵・応神天皇陵・景行天皇陵・宇度墓（以上二五号）、

仲哀天皇陵・白鳥陵・大原陵・近衛天皇陵・景行天皇陵・仁徳

天皇陵・後嵯峨天皇陵・後白河天皇陵・鳥羽天皇陵（以上二六

号）、履中天皇陵陪冢・巨幡墓・深草北陵・崇神天皇陵・同陪

冢・雄略天皇陵・奈良一乘院宮墓地（以上二七号）、仲哀天皇陵

・崇神天皇陵・仁徳天皇陵陪冢・後嵯峨天皇陵・龜山天皇陵・

開化天皇陵・桓武天皇陵（以上二八号）、宣化天皇陵・開化天皇

陵・桃山陵墓地内（以上二九号）、後宇多天皇陵・鳥戸野陵・

繼体天皇陵・景行天皇陵・磐園陵墓参考地・神武天皇陵墓地内

（以上三〇号）

陵墓地形図目録

三〇

正倉院年報

一～六、八、一〇～二九

古製（染織品）の整理（一～二九号）

御物（宝物）の特別調査・修理（三～二九号）

聖語藏経卷の調査・修理・複製（四～二九号）

宝物の模造（二五～二九号）

保存科学的調査（二五～二九号）

書陵部官制の変遷

蔵書史と新収書解説

貴重圖書の翻刻、出版

疎開から展示会へ

編修課事業概要

図書寮本の疎開前後

大窪 太朗

三〇